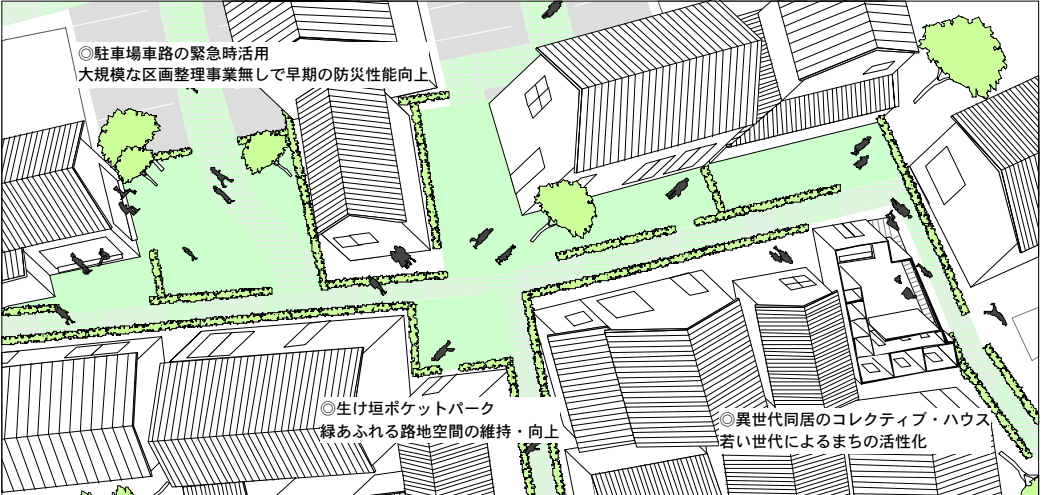


# ■路地みちタウン

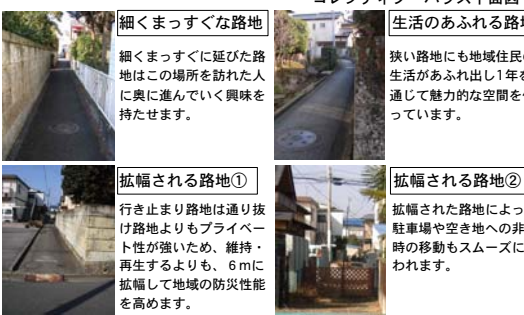
～安全・安心で住み良い都市居住:清住町2丁目～

- みちの時間 : 過去～現在
- みちの速度 : 4km/h (人の歩く速度)
- みちの幅員 : 2m～4m未満
- みちの要素 : 低層住宅(高齢者居住)、空き家、空き地、駐車場
- △まちの問題 : 未接道地による防災性能低下、高齢者化による活力低下
- まちの魅力 : 生活環境と一体化した路地

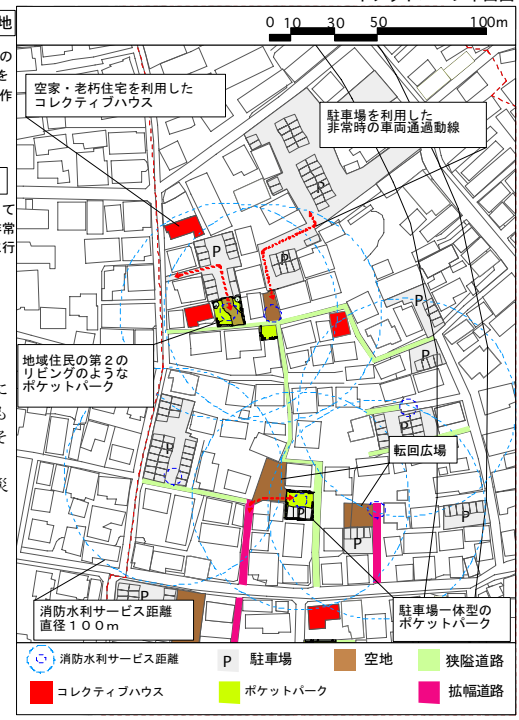


**◎異世代同居のコレクティブ・ハウス …まちの若返り…**  
 この地区には高齢者の住む老朽化住宅や空き家も多く、まちの活性が低下しつつあります。そこで宇都宮市の大学生や若者が老朽住宅や空き家を借り上げるプログラムを大学と地域NPOの協働により発足させ、キッチンなどを共有しながら住まうコレクティブ・ハウスとして再生させます。まちの若返りを促進することで、安全・安心で住み良い都市居住を実現し、宇都宮市のネットワーク型コンパクト・シティの形成に寄与します。

**◎生け垣ポケットパーク …緑あふれる路地空間…**  
 路地に面する生垣や庭木の緑は、この地区の豊かな魅力です。そこで地区計画により生垣の形成を促進させるとともに、通り抜け路地については建築基準法42条3項によって狭小な路地はむしろ維持し、緑あふれる路地空間を維持・向上させます。既存駐車場も緑の生け垣で包まれ、広場とともに路地の景観要素となります。



**◎駐車場車路の緊急時活用 …区画整理事業なしに可能な防災性能向上…**  
 既存する駐車場の車路を緊急車両動線として積極的に活用します。さらに、隣接する駐車場の車路を相互に通過できるようにレイアウトし、空地も活用しながら緊急車両動線を確保します(駐車場レイアウトの誘導)。そして行止り路地のみを6mに拡幅します。この整備手法は、大規模な区画整理事業を必要としないため、住民の合意形成が容易であり、早期に防災性能を向上させることが可能となります。



# ■街道みちタウン

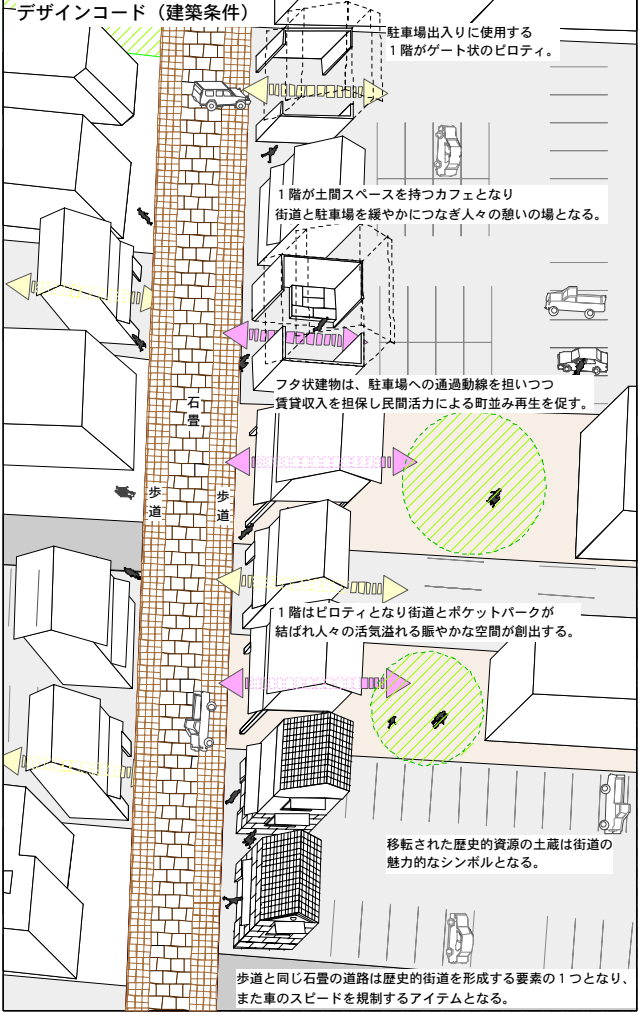
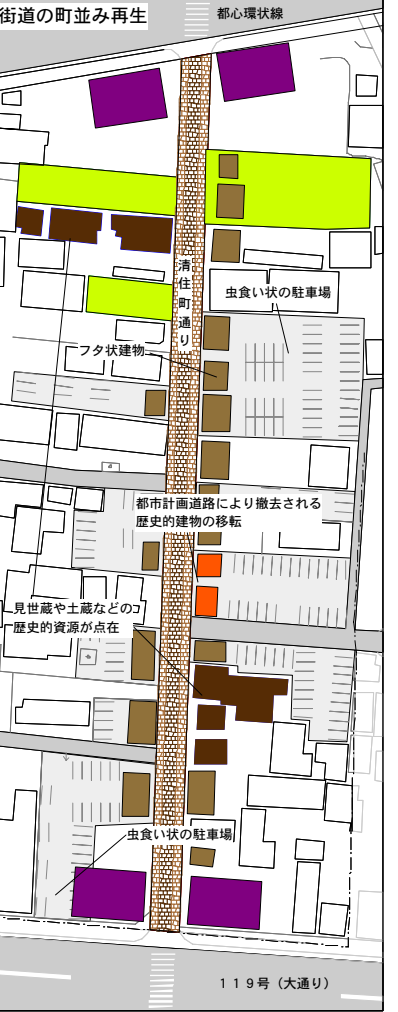
～歴史的資源を活かしたまちづくり:清住町通り～

- みちの時間 : 過去(江戸時代)～現在
- みちの速度 : 2.0km/h (車の徐行速度)
- みちの幅員 : 約8m (車道4m+両側歩道2m)
- みちの要素 : 見世蔵、土蔵、寺社、菊水祭の神輿、虫食い状の駐車場
- △まちの問題 : 虫食い状の駐車場による町並みの崩壊、歩道未整備
- まちの魅力 : 日光街道の面影



**◎歴史の建物の移築と石畳 …町並みの補完…**  
 都市計画道路により撤去される歴史的建物は、清住通りに移築し、既存の歴史的資源を活かして町並みを再生させます。街道の交通は、都心環状線の整備後には減少が予想されるため、路面舗装を栃木県産の石畳に張替え、歴史的なイメージを増幅させます。

**◎駐車場のフタ状建物 …厚みのある町並みの形成…**  
 虫食い状の駐車場に対するフタ



**◎駐車場のフタ状建物 …過渡期の町並み再生…**  
 点在する既存の蔵を活かして街道の町並みを再生します。虫食い状の駐車場に対しては街道沿いに平入の建物を配置し「フタ」をし、フタ状建物には、平入りで1階にピロティや土間スペースをもつようデザインコード(建築条件)が制定されます。駐車場施設として建設されることを想定し、経営者への補助金により家賃収入を担保しつつ、民間活力によって、町並み形成の過渡期にありながらも早期に再生を促します。

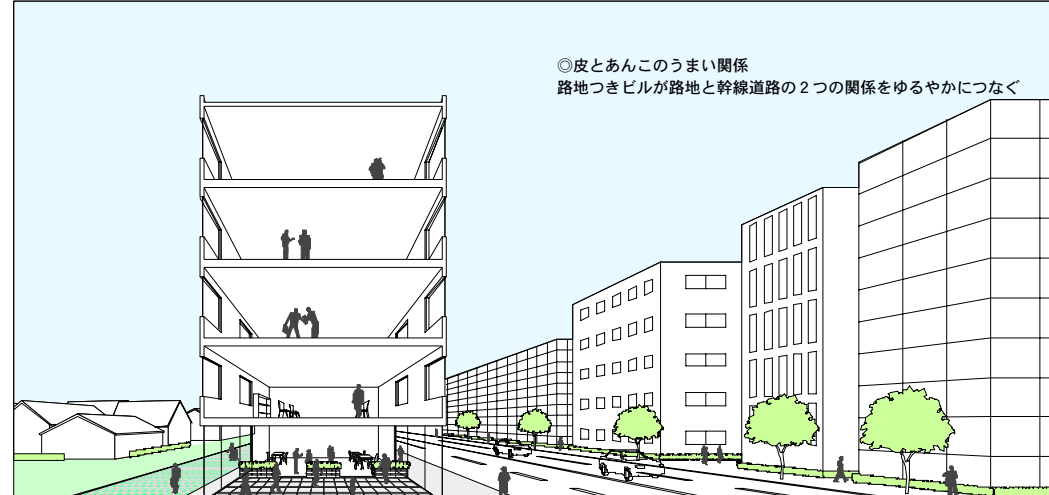
**◎未来のデザイン …厚みのある町並み…**  
 フタ状建物と歴史的建物移築により町並みか再生し始めると、歴史的地区として認知され訪客が訪れるようになります。将来的には、街道から路地が分岐させることで、歴史的町並みを厚みをもって浸透させ、虫食い状の駐車場は解消されてゆきます。



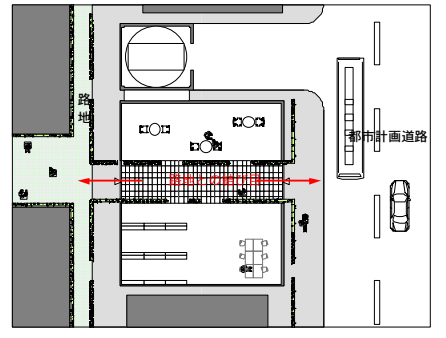
# ■幹線みちタウン

～ゆるやかに連続する市街地整備:都心環状線(都市計画道路)～

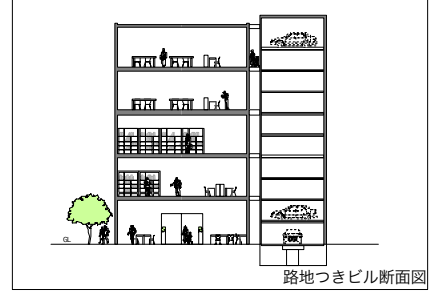
- みちの時間 : 現在～未来
- みちの速度 : 50km/h (幹線道路の車両速度)
- みちの幅員 : 20m
- みちの要素 : 路線商業の高層ビル
- △まちの問題 : 市街地整備、既存の路地や旧街道との取り合い
- まちの魅力 : 商業の賑わい



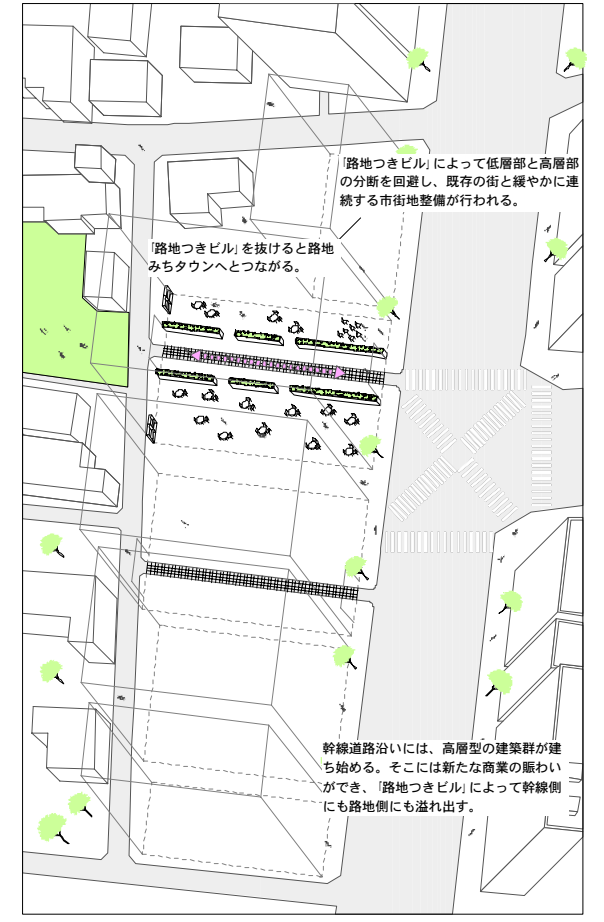
**◎「皮とあんこ」のうまい関係 …路地つきビル…**  
 幹線道路の両側には路線商業の高層ビルが建ち並ぶことが想定され、通常はその内側の低層住宅地に対して「皮とあんこ」に分断された関係が生じます。この分断を避けるために、1階に路地を内包しながら「路地みちタウン」へ抜ける「路地つきビル」を提案します。幅員も速度も異なる2つの「みち」が建物を介してゆるやかにつながれます。



路地つきビル平面図  
 幹線沿いには郊外型の宇都宮ならではの駐車場付きの建築群が建ち並ぶ。下層は路地を中心に分断され、テナントなどが多く入る。



路地つきビル断面図  
 1階は主に路地が建物内を通り抜け、テナントが入り、上層階にはオフィスや商業施設が入る。また、立体駐車場が併設され、自由な往来が生まれる。



**◎過去と未来のみのちの交点 …街道の角ビル…**  
 新たな都市計画道路と江戸時代から続く旧日光街道(清住町通り)の「交点」をいかに計画するかは大きな問題です。そこで、低層部と高層部を併せ持ち、新旧両方の「みち」のスケールが複合した「街道の角ビル」を提案します。この建物は旧日光街道(清住町通り)の始点と終点に配置され、低層部はまちの観光センター機能を合わせつつ吹き抜け空間であり、未来の中心市街地を形成しつつ過去の街道とゆるやかに連続する市街地整備のあり方を実現します。

